

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	アスクわかば保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	藤松 智子	定員(利用人数)：	60 (61) 名
所在地：	〒 350-0214 埼玉県坂戸市千代田 3-21-23 ヴィラ・ボンセジュール若葉 1階	TEL	049-280-5777

③評価実施期間

平成28年8月30日（契約日）～平成29年3月31日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

○園長・主任を中心に、職員間の連携を活かし、情報の共有や保護者とのコミュニケーションに努め、求められる保育・楽しく働ける保育を進めている

園長を中心とした職員間の良好な関係が日々の保育業務に活かされ、保護者から理解を得て高い信頼関係を築いている。園長と主任との役割分担が明確に行われ指導体制ができており、園長が保護者や職員との日々のコミュニケーションを大切にして受容的な関係を大切にしている方針が、職員全体に浸透し保護者と職員の相互の信頼関係が築かれている。保育士から提出された書類は、園長が確認して助言、指導を行っている。主任が指導を行った時は、園長に報告し情報を伝え合いながらお互いの役割を分担し尊重し合い職員の指導にあたっている。職員同志のアットホームな連携感を利用者調査の高い満足度につながり、「本当に求められる施設であること」という運営理念を目指すものであり、さらに「職員が楽しく働けること」も職員間のコミュニケーションが良好で協力が構築されているなどの職員調査結果から、職員が楽しく働き、共有、共感、協働し保育実践が営まれている職場の体制が成り立っていると評価できる。

○子どもたちの安全・安心を第一に、事故の未然防止や抑止に向けた取り組みを積極的に進めている

運営理念である「安全・安心を第一に」の達成に向けて、危機管理マニュアルの整備やヒヤリハット、事故報告書の様式を整え、系列園での事例を把握し、要因や現象別などに分析して各園での予防策・抑止策に活かしている。今年度、安全対策課が立ち上げられ、各園で発生したアクシデント等の情報を午前と午後の2回配信し、注意喚起と事故への意識向上・強化につなげている。また、事故などへの対応について各園内での話し合いを進め、自園で事故が発生した場合の対応策や予防に向けて考えられることを職員間で協議してもらい、他園での対策につなげたり、職員の心構えや意識のさらなる向上、子どもたちの安全への配慮に反映している。

○保護者などの関係者が保育園の活動に関わることで、子どもたちの楽しい・思い出に残る園生活となっている

保育業務補助のボランティアを受け入れ、在園児の祖父が園庭の整備やプランター・鉢植えの花などの世話をしてくれている。また、今年度保護者の父親による「おやじの会」が立ち上がり、行事の制作や園庭を利用した野菜作りなどへのお手伝いを担当してもらっている。さらに保育士体験を通して保育活動の内容やねらい、工夫や配慮などを直接体験してもらうことで、保育園に対する意識や理解、協力などに活かされ、信頼と高い満足度につながっている。保護者が様々な形で保育園と関わることで、子どもたちの楽しい・思い出に残る園生活の実践となっている。

◇特にコメントを要する点

○おもちゃへの取り組みなどを進めており、園での取り組みを保護者にも丁寧に伝え、さらなる遊びの充実に活かされたい

園内研修でおもちゃの3カ年計画を、26年から今年度まで進めておもちゃの充実や職員間の遊びについての共通認識を深めることができた。さらに今年度の課題となった遊びの充実と保育環境の整備など、保護者への遊びに関する発信などに活かされたい。中長期計画の3年目を迎え、今までの積み重ねを踏まえておもちゃの使い方や保育環境の設定について職員間で意見交換を行ってきており、保育室は保育士の手作りのおままごとのコーナーや絵本コーナー、お絵かきコーナーなどの環境が整えられ、子どもが自分の好きな場所を選び、自主的に楽しく遊んでいる様子を職員間で共通理解するまでに至った。このような園内研修の取り組みについて、子どもの遊びの様子、保育活動の工夫や取り組み、遊びの考え方などを含めて保護者に丁寧に説明し共有することで、保育活動の理解や協力などに活かされたい。また、今後も継続的に子どもたちの遊びのさらなる充実に向けた園内研修などに活かされたい。

○地域の資源を活かし、保護者との連携をもとに、子どもたちのさらなる楽しい思い出に残る保育を進められたい

近隣の大学や公園への散歩、公共施設など活かした保育活動など、地域の資源を子どもたちの成長に上手に活用している。公立保育園児と一緒に小学校を訪問して、授業体験や1年生との交流などを行っている。また、隣接する商業施設の協力による行事や子育て家庭向けの講習や研修など、保育園の機能を活かした取り組みが実施されている。今後も、大学との連携を活かしてボランティアの受け入れや交流の促進を図り、公民館などの公共施設を活用したイベントや子育て家庭に向けた様々な学びの機会を検討するなど、保護者の「おやじの会」との協力のもと子どもたちのさらなる楽しい園生活につながる思い出に残る保育に向けた取り組みを進められたい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今年度はおもちゃの3カ年計画の最終年度を迎えるにあたり、室内環境の改善に力を入れるため、職員間での話し合いをもってきました。特におもちゃの充実、収納スペースの整備を進める中で、子どもたちが主体的に遊びこめる環境が整い始めたと思います。次年度は3カ年計画未達成の課題解決に取り組み、不足部分の具現化に力を入れていくつもりです。また、一昨年度の課題であった地域子育て支援としての園内外における行事、研修に取り組み、園内で独自に発足したおやじの会等で園の活動を知っていただくことができました。今後は地域とのつながりをより一層深めるために、情報発信の工夫と強化に努めて参ります。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり